

No.創出-2-2

芝生を活用したオープンスペースの創出

技術の目的

芝生の多面的な機能を活用したオープンスペースの創出により、地域活性化、健康増進、コミュニティ形成、防災機能向上、都市環境改善を図る。

導入する局面	創出	維持管理	利活用
適用空間	水域		陸域

技術の内容・事例

■技術の内容

1. 芝生空間のもたらす効果



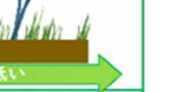
- ・ 芝生空間の形成により以下の効果が期待される。

表 芝生空間が有する多面的な効果^{出典1}

	
<p>地域活性化：歩いて楽しくなる空間の形成と周辺へのにぎわい波及（南池袋公園／豊島区）</p>	<p>健康増進：疲労・ストレス軽減、体力向上、運動時におけるけがの防止など（虎ノ門ヒルズ／港区）</p>
	
<p>コミュニティ形成：地域のイベント活動・コミュニケーションの場</p>	<p>防災機能の向上、都市環境改善：避難地としての機能、雨水貯留浸透機能の向上、ヒートアイランド現象緩和</p>

2. 芝生設計のポイント^{出典1}

- ・ 芝生空間は利用方法や利用頻度などで整備や維持管理の水準が変化することから、設計に当たっては、利用目的や利用強度（利用者数、年間利用期間）、利用形態を勘案し、レイアウトや品種剪定、維持管理のレベルなどを検討する必要がある。

	しっかりタイプ	ほどほどタイプ	らくらくタイプ
断面			
適用空間	刈り込み、施肥、除草を組み合わせ、芝生を健全に生育させていくもので、修景・鑑賞・利用を目的とする空間に適用する。	芝生を主体としながらも、イネ科雑草の混在を許容した状態で維持する草地で、芝生などで覆われた一定の広がりがある空間などに適用する。	芝生と広葉雑草が混在し、裸地なども点在している状態で維持する草地で、一定の被覆を期待されている空間に適用する。
留意点	芝生の回復を超えるような踏圧の部分については、養生期間の確保や動線の制御、補植などの管理が必要になる。	管理頻度が少なくなることから、らくらくタイプほどではないが、一度の管理の影響や刈高の変化が大きい。刈込みの時期に留意が必要。	管理頻度が少なくなることから、一度の管理による軸刈りの影響や刈高の変化が大きい。刈込みの時期に留意が必要。
ランニングコストの目安	500円～4,500円/㎡程度 ※WOS*：1,000㎡で約50万円程度増	100円～500円/㎡程度 ※踏圧が強い部分で芝を維持するためには、より管理のランクを上げる必要がある。	50円～100円/㎡程度 ※踏圧が強い部分で芝を維持するためには、より管理のランクを上げる必要がある。
管理内容の目安	<input type="checkbox"/> 芝刈 10～回/年 <input type="checkbox"/> 施肥 3～8回/年 <input type="checkbox"/> 灌水方法 (手動もしくは自動灌水) <input type="checkbox"/> WOS* 有or無 <input type="checkbox"/> その他 (エアレーション等適宜)	<input type="checkbox"/> 芝刈 5～10回/年 <input type="checkbox"/> 施肥 0～1回/年 <input type="checkbox"/> 灌水方法 (手動もしくは自動灌水) <input type="checkbox"/> WOS* 無 <input type="checkbox"/> その他 (エアレーション等適宜)	<input type="checkbox"/> 芝刈 0～4回/年 <input type="checkbox"/> 施肥 0～1回/年 <input type="checkbox"/> 灌水方法 (手動) <input type="checkbox"/> WOS* 無 <input type="checkbox"/> その他 (エアレーション等無し)

■ 出典・参考資料

- 1 国土交通省都市局公園緑地・景観課「芝生のチカラを活かしたまちのCORE（コア）のつくり方～芝生を活用したまちなか空間の創出ガイドライン～（令和2（2020）年3月）
https://www.mlit.go.jp/toshi/park/toshi_parkgreen_tk_000087.html

基本指針との関連

居心地がよく歩きたくなる 水と緑にかこまれたまち		水と緑を楽しみ、 魅力とにぎわいにあふれたまち	水と緑が守り、育む 環境共生型のまち		緑が支える 防災・減災のまち
良好な 景観形成	暑熱対策	人の集う場・ 活動の場	都市の 水管理	都市の生物 多様性確保	防災・減災
○	○	◎	○		○

注) ◎：当該技術の主要な機能、○：当該技術の副次的な機能

期待される効果

環境			防災			福祉・教育			地域振興		商業・観光振興					
ヒートアイランド減少の緩和	都市における生物多様性の確保	水質改善	災害（火災・水害など）の軽減	災害時の復旧活動・支援拠点	災害伝承・防災教育の場	健康増進・介護予防	緑の景観によるストレス軽減	子育て支援	環境教育・自然とのふれあい	コミュニティの醸成	地域の自然観・郷土愛の醸成	都市の魅力・競争力の向上	不動産価値の向上	観光・商業振興	労働生産性の向上	労働環境の改善
●		●		●		●	●	●	●	●		●	●	●	●	●

